

令和5年度第2回 学校法人木村学園 大阪電子専門学校
情報エンジニア科 学校関係者評価委員会

【日時】 令和6年3月13日(水) 13:00～14:30

【場所】 大阪電子専門学校 3階コワーキングスペース

【出席者】

(学校関係者評価委員：敬称略 順不同)

大音 和豊 株式会社モノプラス(委員長)
小森 望充 国立大学法人九州工業大学(御欠席)
佐々木 啓 久米電気株式会社
吉田 剛 株式会社ベルチャイルド(Web参加)

(アドバイザー)

河原 吉伸 大阪大学大学院情報科学研究科 教授

(弊学園教職員：学校関係者評価委員には含まない)

木村 誠 学校長
上田 良和 司会・電気設備科班長・電気設備科1年担任
中本 智 情報エンジニア科班長・情報エンジニア科2年担任・就職担当
刀根 辰樹 情報エンジニア科1年担任

【議案】

1. 令和5年度自己評価報告書の報告と質疑応答
2. 令和5年度情報エンジニア学科アンケートについて

【議事録】

1. 令和5年度自己評価報告書の報告と質疑応答

令和5年度の自己評価報告書について以下の報告がなされた。

(1) 自己評価結果

- ・前回の自己評価では評価すべき内容が多く複雑な記載になっていたため、チェックシート化して評価する形にした。
- ・学生数の状況は評価項目には含まれていないが、評価するべきであると考えているため、評価項目に盛り込んだものを後日送付する。
- ・全項目を通して適切であると評価した。
- ・本校の教育理念である「人技両立」を実現するため、学期末パーティ等の学内イベントを学生主導で実施させる等して、人格の向上に努めている。
- ・学生ニーズは年々変化するため、変化に対応した内容を提供していくことが改善課題である。
- ・技術だけでなく、ビジネスマナーも放課後等の時間を活用して学生へ指導した。
- ・教員に対しても講義だけでなく、研修を計画・実施することで価値向上に努めている。
- ・AIやロボットに関する内容も研修計画に盛り込んでいくことが改善課題である。
- ・資格取得率に関しては、電気設備科2年生、電子工学科2年生、情報エンジニア科2年生は100%となっている
- ・卒業生の状況を把握できるようにすることが改善課題である。
- ・卒業生の再就職や資格等の相談等に円滑にサポートすることが改善課題である。
- ・教育環境に関しては、長期休暇前や災害時に教育活動が維持できるような設備管理に努めている。
- ・設備の管理をより小まめに行い、適切なタイミングで保守や更新を行うことが改善課題である。
- ・エントランスのリニューアルやLED照明の導入により、学生が訪問、利用しやすいような空間作りを行った
- ・災害対策に関しては、防災マニュアルの改訂を行った。
- ・学校名について、今後、先進的なIT系の講義を行う上で、より訴求できる名称はないか検討中。
- ・学生数増加に向けて、他校が選ばれた原因等を分析し、対策を検討している。

- ・基本情報技術者試験の午前免除、電気設備科及び電子工学科の資格認定を維持するため、経済産業省や総務省等の法令順守を継続している。
- ・社会貢献活動として、大阪マラソンのテレビ中継用設備の設置スペースを提供した。

(2) 質疑応答 (●委員、○本校)

- オープンキャンパス等で学生の作品を展示する等、学校の活動を発信し、細かいことであってもアイデアを継続的に出し、積み重ねていくことが状況を改善するために重要。
- プロダクトに関して、カリキュラムも充実しており、良い作品もできており、学生の質が上がっているように感じている。素晴らしい教育ができています。実習が多いので、生徒数が増えた方が切磋琢磨も起こり、授業、作品がより充実したものとなると思う。そうすると、学生数も自然に増えると思う。
- 自己評価報告書について、成果と改善方策が記載されているが、課題を明記した上で改善方策を記載したほうが、課題が分かりやすくなるのではないか。
- 設備のメンテナンスは外部に依頼しているのか。
⇒○学校で対応できる範囲のものは学校で行い、難しい場合は業者に委託している。IT系に関しては、動作が遅い等の意見が学生から出た場合や、使用したいソフトウェアが快適に動作しない場合等にハードウェアの更新を行っている。
- 計測器の校正は行っているか。
⇒○評価項目に含まれていないこともあり、定期的には行っていない。明らかな故障を発見次第、買い替え等で対応している。
- 救命講習の受講はとても良い活動であり、人と人との接点でもあるため、人の命を救うだけでなく、人と人との関わりを作る上でも重要。倫理的に今後も続けていくことが望ましい。
⇒○救命講習については、消防署から学内で実施できるよう養成員を作ってほしいという要望があり、1名の教員が養成員の資格を取得した。来年度も数名受講し、来年度以降は学内で救命講習を実施できる体制とする予定。
- 学生にとって学校は社会活動の場となるので、建物の大規模改修はできないかも知れないが、建物の清掃は小まめに行うことが、清潔感のある環境で学習できるという印象を学生に与える上で重要。
⇒○清掃については、業者による床清掃を年3回実施している。また、複数名の清掃員と契約し、清潔な職場環境の維持に努めている。学生の自主的な清掃活動については、改善課題である。
○専門学校の目指すべき方向性についてご意見をいただきたい。
⇒●現状、AI等の先端技術は大企業で活用されているが、中長期的には中小企業においても求められていくと考えている。そのため、AIにも精通した地域に根差した人材を育てていくことが、専門学校により求められていくのではなか。
⇒●ITといっても幅が広いので、学校としてどのような人材を育てるかのターゲットを絞ることによって、大学にはない専門学校の強みは出せるように思う。教育の質は素晴らしいと思うので、現場のニーズを捉えた教育を行うことによって発展することは十分可能であると考えている。

2. 令和5年度情報エンジニア学科学生アンケートについて

(1) 学生アンケート結果

- ・1年生からは、資格取得に関する講義が好評であった。
- ・パソコンメンテナンス系の講義に関しては、より専門的な内容にして欲しかったという要望があったため、次年度はパソコン整備士資格に繋がる講義等を追加する予定。
- ・学生の学力にバラツキがあるため、補講を行う等して、講義についていけない学生のフォローを行っている。
- ・2年生からは、実習系の講義が好評であった。
- ・学生のモチベーション維持のため、エンジニア系の学生がデザイン系の講義の受講を選択可能にする等、学習にメリハリがつくようにしている。デザイン系の講義が好評だったこともあり、本対策は奏功したと考えている。
- ・AI系の講義に関しては、学力のバラツキもあり、難しいとの評価が多かった。
- ・イベントについて、コミュニケーションが苦手な学生から改善要望があるが、イベント活動を通してコミュニケーション力を高めることは、社会人として重要であるので、コミュニケーション力のある学生とペアにする等してフォローしていく予定。
- ・資格取得に関する満足度は高かった。
- ・通学時間と授業態度に相関性が見受けられるので、遠方在住の学生については、学校の近くに下宿することを提案する根拠として使用することも想定している。

(2) 質疑応答 (●委員、○本校)

●人気のある講師はどのような点が好評なのか。

⇒○授業に取り残される学生がいないように、一人ひとり理解できたことを確認しながら授業を進めていく点と、実習等では学生に発表させる機会を与えて、興味をもって自主的に学習させるといった楽しく学べる雰囲気づくりが好評の要因であると考えている。